

出エジ13 出エジプト記9章13節～10章29節

「最後の3つの災い」

1. 文脈の確認

- (1) エジプトに主からの10の災いが下る。
- (2) 10の災いの記述は、考え抜かれた形式美を持っている。
- (3) $3 \times 3 + 1 = 10$ という形式になっている。
- (4) きょうは最後の3つの災いを取り上げる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 第七の災い：雹
- (2) 第八の災い：いなご
- (3) 第九の災い：暗やみ

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 偶像礼拝の愚かさ
- (2) パロの頑なさ
- (3) 【主】という御名

このメッセージは、人生そのものを考えさせるものである。

I. 第七の災い：雹(9:13～35)

1. 警告(9:13～19)

- (1) 各セットの中の最初の2つは、災いの前に警告が与えられる。
- (2) 各セットの中の1番目は、モーセがパロの前に立つ。時間は朝。
- (3) 「わたしの民を行かせ、彼らをわたしに仕えさせよ」
 - ①単なる解放ではなく、神とイスラエルの民の関係の構築。
 - ②神は、礼拝する民を作ろうとしておられる。
- (4) 災いの目的
 - ①エジプト人に【主】がどのようなお方であることを教えるため。
- (5) 雹が降る。
 - ①あすの今ごろ
 - ②エジプトにおいて建国の日以来、なかったこと。

③きわめて激しい雹

(6) 警告

①野にいる人を避難させよ

②野にいる家畜を避難させよ

2. エジプト人の2種類の反応(9:20~21)

(1) 教訓を学びつつある人

(2) 教訓を学ばない人

①プライドは、合理的な思考を停止させる。

②偶像礼拝は、真の神への恐れを停止させる。

3. 実行(9:22~26)

(1) 動作の主体:最後の3つは、モーセの手

(2) 【主】が警告された通りになった。

(3) 雷と雹。火がひらめき渡った。

①雹は、エジプトでは年に3日ほど。

②雷が伴うことは皆無である。

③火が伴うのは、超自然現象である。

(4) 被害の対象

①野にいた人

②野にいた獣

③野の草

④野の木

(4) 災いの範囲:エジプト全土に広がったが、ゴシェンは守られた。

4. 結果(9:27~35)

(1) パロの告白

①私は罪を犯した。

②【主】は正しいお方だ。

③【主】に祈ってくれ。

④私はおまえたちを行かせよう。

(2) モーセの回答

①私が町を出たら、すぐに【主】に祈ろう

②そうすれば、雹は降らなくなる。

③この地が【主】のものであることをあなたが知るためである。

- ④しかし、パロとその家臣の【主】への恐れは本物ではない。
- (3) 時期
 - ①大麦が穂を出し、亜麻がつぼみをつけるのは、1月～2月。
 - ②小麦とスペルト小麦（裸麦）は、3月～4月に実をつける。
- (4) パロとエジプト人は、再び頑なになった。

II. 第八の災い：いなご（10：1～20）

1. 警告（10：1～6）

- (1) 各セットの中の最初の2つは、災いの前に警告が与えられる。
- (2) 各セットの中の2番目は、モーセはパロの前に立つが、時間は不明。
- (3) 目的
 - ①エジプト人が信じるように、しるしを行う。
 - ②エジプトの中で【主】が行われたことを、息子や孫に語って聞かせるため。
 - ③【主】は契約を守るお方であることを、イスラエル人が知るため。
- (3) いなごが地の面をおおう。
 - ①あす
 - ②地は見えなくなる。
 - ③雹の害を免れた植物が食いつくされる。
 - ④野だけではなく、パロの王宮にもエジプト人たちの家にも満ちる。
 - ⑤エジプトの歴史上なかったことである。

2. 応答（10：7～11）

- (1) 家臣たちの応答
 - ①彼らは教訓を学んだ。
 - ②パロへの進言
 - *パロの知恵と力を疑い始めている。
 - *パロの神性をも疑い始めている。
- (2) パロはモーセとアロンを呼び戻した。
 - ①いったいだれが行くのか。
 - ②全員が、全家畜を連れて出て行く。
 - ③パロは壮年の男だけを行かせようとした。
 - ④「悪意はおまえたちの顔に現れている」（新改訳）
 - 「お前たちの前には災いが待っているのを知るがよい」（新共同訳）
 - ⑤「壮年の男だけ行って、【主】に仕えよ」

3. 実行（10：12～15）

- (1) 動作の主体：最後の3つは、モーセの手。
- (2) 災いの範囲：エジプトのみに下り、イスラエル人は守られる。
- (3) 終日終夜東風が吹き、朝になると東風がいなごの大軍を運んできた。
- (4) エジプト全土にわたって、緑色は少しも残らなかった。

3. 結果（10：16～20）

- (1) 災いの程度：最後の3つは、悲痛なもの。
- (2) パロの悔い改め
- (3) モーセの執りなしの祈り
- (4) 強い西風が吹き、いなごは追いやられた。
- (5) パロは再び頑なになった。

III. 第九の災い：暗やみ（10：21～29）

1. 警告：各セットの中の3番目には警告はない。

2. 実行（10：21～23）

- (1) 動作の主体：最後の3つは、モーセの手。
- (2) エジプト全土は3日間真っ暗闇になった。
 - ①ゴシェンの地は守られた。

3. 結果（10：24～29）

- (1) 妥協案
 - ①幼子が行ってもいいが、家畜は置いていけ。
 - ②エジプトの家畜は死んでいた。
- (2) モーセはそれを拒否
 - ①荒野に行くまでは、どの動物をいけにえにするのか不明である。
 - ②実際、モーセの律法が与えられるのは、シナイ山に着いてからのこと。
- (3) パロの心は頑なになった。
- (4) 両者が交渉のために顔を合わせることは、2度とない。

結論： このメッセージは、人生そのものを考えさせるものである。

1. 「偶像礼拝」の愚かさ

(1) 第7の災いによって裁かれた神

⑱Shu シュー (太陽神ラの息子。天空の神)

⑲Nut ヌト (天空の女神)

⑳Seth セト (農業神)

21 Isis イッシス (農業の女神)

(2) 第8の災いによって裁かれた神

⑳Seth セト (農業神)

21 Isis イッシス (農業の女神)

(3) 第9の災いによって裁かれた神

⑱Shu シュー (太陽神ラの息子。天空の神)

⑲Nut ヌト (天空の女神)

22 Ra ラ (太陽神)

23 Khepri ケプリ (フンコロガシの頭を持つ太陽神。

糞を丸くする力が太陽を動かす力と考えられた)

24 Harakhte ホルアクティ (鷹の頭を持った太陽神)

25 Aton アトン (日輪像。太陽神)

26 Horus ホルス (両眼が月と太陽である天空の神。ハヤブサの頭を持つ)

27 Atum アトゥム (夕陽の神)

28 Thoth トト (月の神)

2. パロの頑なさ

(1) 神はパロが頑なになることを許された。

(2) これは、なぜ10の災いが必要かということと関係している。

①エジプト人を解放するだけなら、1度の災いでいい。

(3) 目的

①エジプト人に、【主】とは誰かを教えるため。

②イスラエルの民に、【主】とは誰かを教えるため。

*イスラエルの民は、子孫の代までこれを記憶するのである。

③全世界に、【主】とは誰かを教えるため。

3. 【主】という御名

(1) 9 : 14

(2) 10 : 2

(3) 【主】とは契約を守る神という意味である。